

阿賀野市立吉田東伍記念博物館

友の会通信

2010-2011

No.4 (通巻61号)

2011.3.1発行

- 目次 平成23年度 吉田東伍記念博物館友の会総会／市民文化講演会2011「能の楽しみ」…………… 1
会員の研究ノート 伝・七島館出土の「大明成化年製」裏銘の磁器皿について …………… 2・3
冬の小企画展:阿賀野市所蔵近現代美術品展Ⅲ／サークルだより／友の会伝言板～事務局より／編集後記 …………… 4

発行: 吉田東伍記念博物館友の会 〒959-2221 阿賀野市保田1725-1 (阿賀野市立吉田東伍記念博物館内)
TEL 0250-68-1200 FAX 0250-68-5016 web版友の会通信 <http://wind.ap.teacup.com/togo/>

博物館HP http://www.city.agano.niigata.jp/togo_museum/index.html

E-mail y.togo@oregano.ocn.ne.jp

平成23年度

吉田東伍記念博物館友の会総会

日 時 4月17日(日) 11:00～

※引き続き午後に市民文化講演会を開催します

会 場 阿賀野市ふれあい会館 研修室

議 題 平成22年度事業報告、
平成22年度決算報告、
平成23年度事業計画(案)、
平成23年度予算(案)、その他

活動スナップ
①

能楽師・津村禮次郎氏を囲む茶話会



11月6日(土) 能装束・能面を持参された津村先生の興味深いお話に満席の聴衆も引き込まれました。

市民文化講演会2011「能の楽しみ」

昨年11月に開催して好評を博した茶話会に続いて、津村禮次郎氏が能の魅力をつつりと語ります。今回は映像資料を交えながら、能の見方や様々な演能の場＝能舞台・薪能についてお話されます。世阿弥の「発見者」・吉田東伍が時代を超えて阿賀野市と能の世界をつなぐ、夢のプロジェクトの第2弾です。是非ご参加下さい。

主 催／ 阿賀野市立吉田東伍記念博物館、吉田東伍記念博物館友の会

日 時／4月17日(日) 14:00～16:00(13:30開場)

会 場／ 阿賀野市ふれあい会館 多目的ホール
(阿賀野市笹神支所隣、Tel.0250-63-8019)

講 師／ 津村禮次郎 氏 (観世流能楽師、重要無形文化財「能楽」保持者 (総合認定))

定 員／ 200名 (先着)

参加費／ 無料 (要整理券)

※整理券配布所: 吉田東伍記念博物館、阿賀野市役所、各支所、
阿賀野市立図書館、市内各公民館



講師 津村禮次郎 氏

〔講師略歴〕1942 年、福岡県出身。観世流能楽師。重要無形文化財「能楽」保持者 (総合認定)。海外公演を精力的に行うほか、オペラや現代演劇とのコラボレーションなど、新作能にも意欲的に取り組んでいる。

伝・七島館出土の「大明成化年製」 裏銘の磁器皿について

会員 小林 弘（こばやし ひろし）

はじめに

最近、余暇を利用して旧京ヶ瀬村の七島館について踏査する機会があった。遺跡台帳には室町時代の「七島館」として周知化されている場所である。新潟平野の沖積地。旧阿賀野川が大きく蛇行した河道の自然堤防上に立地し、標高は6m前後である。現況は墓地、畑地、水田である（図版1）。

当遺跡は地名などから居館跡の可能性が指摘されたもので、居館の城主や城歴を示唆するような古文書や地名、遺構・遺物は確認できない。地元の伝承で「長谷川屋敷」と呼ばれ、伝・長谷川右門の屋敷跡という場所から船載磁器の「大明成化年製」と「大明成年化製」銘記の染付磁器皿が出土したという。中世の居館として遺跡登録された経過は、昭和44年頃の『村誌』によれば、新発田市天王（当時は豊浦村）在住の文化財パトロール員・佐藤義利氏が伝承などを根拠に居館跡としたのが最初らしい。

昭和37年の「京ヶ瀬村公民館だより」に「七島の長谷川屋敷より出土の支那皿」として次のような文が載っている。「皿は今から70年前、酒井太吉氏と佐藤金次氏の祖父が字元諏訪にあった所有畑の境木植替えの時出土発見したもので、皿の他に茶碗類も多く、両家で分けて長年使用してきて大部分が破損し、今残っているのが酒井氏の皿2枚だけという。県教委でもこの貴重な文化財がながく酒井家に保管される事を希望している」。

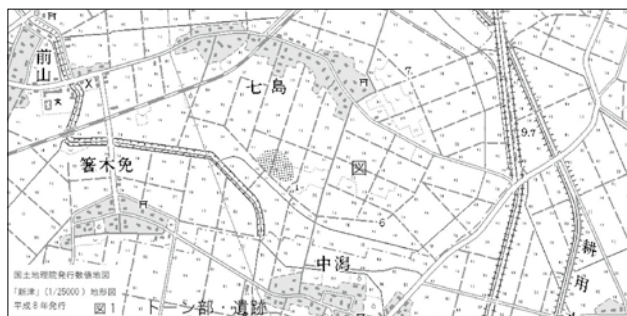
このたび貿易陶磁の可能性が指摘されてきた磁器皿を、所有者の酒井氏に快諾をいただき紹介させていただく機会を得た（図版2）。

酒井氏所蔵磁器皿

所蔵されている磁器皿は染付唐草文輪花皿2点、染付長皿1点の計3点である。このうち、「公民館だより」に紹介されている染付梅唐草文輪花皿1点について紹介する。他の2点は今回とりあげる遺物と口縁径、高さ、高台径などほぼ同寸であり、文様構成も同じことから同一規格による大量生産による製品と見られる。高台内の裏銘のみ、草書体で2行6文字で「大明成化年製」と記載されている点が異なるだけで同時期のものと思われる。

考察

国内肥前磁器の高台内に「裏銘」とか「底裏銘」と呼ぶ銘款を施すものは、中国陶磁器の影響を受けて、国内で17世紀中頃から使用されるようになった。「成化年」（1465～87）は中国・明の年号で、「大明成化年製」銘の日本での使用開始は17世紀前半から始まり、江戸時代を通じて使用されるようになるもので、明で生産された製品を見本に日本の伊万里焼でも生産されている。高台内銘款の種類と変遷については、大橋康二氏の分類試案があり、それを参考にすれば、本例は2行6字銘の左側の「化年製」を切り離したもので、同様のものは17世紀後半以来多用され、19世紀以降も引き続



図版1 遺跡地図



図版2 染付梅唐草文輪花皿

口縁の一部を欠損するがほぼ完形品である。口縁径18.7cm、高さ3.2cm、高台径11.5cm。体部側面には裏文様の「如意頭唐草文」が施されている。底部外面の高台内には草書体で「大明成年化製」の2行6文字の銘款がある。

き用いられるという。

また、体部外側面の文様は「裏文様」と呼ばれ、「如意頭唐草文」が施してある。肥前磁器は最初、中国の製品を手本にしていたが、1630年以降になると、裏文様が見られるようになり、今回紹介した如意頭唐草文は、佐賀県有田町南川原窯ノ辻窯のⅠ～Ⅵ類に分類された文様のⅡ類に類似する。元禄年間（1688～1703）には梅花の代わりに如意頭文を描いたⅡ類の連続唐草文が主となり、18世紀代の裏文の中心となることが指摘されている。（大橋1989）

内面の梅唐草文は18世紀頃の特徴で梅唐草文は

伊万里焼で1700年から1730年代の形骸化した文様と類似している。高台内外面にハリ支えの溶着痕が確認できるが、この点については、中国製品には見られないもので、17世紀後半の特徴で、皿を焼成する際に底裏にハリと呼ぶ小円錐状の支えを1個以上置く手法が開発され、普及した。このハリ支えは中国製品を手本に高台径を広く、器壁を薄く成形しようとした場合、焼成段階で底部が歪むのを防止するために考案されたと考えられている。

以上のことをまとめて私見を述べれば、「公民館だより」で指摘されているような明で生産され、日本に輸入された磁器皿というより、17世紀末～18世紀代の国内産肥前磁器皿の伊万里焼の可能性を考えたい。したがって、室町時代の城館として登録されている七島館と本遺物との関連性は考えにくいものと思われる。

【主な参考文献】

京ヶ瀬公民館（1962）

「大明成化年製皿」『京ヶ瀬公民館だより』

佐賀県立九州陶磁文化館（1984）

『国内出土の肥前陶磁』

大橋康二（1989）

考古学ライブラリー『肥前陶器』

ニューサイエンス社

九州近世陶磁学会（2000）

『九州陶磁の編年』

活動スナップ

②

秋の研修旅行

11月18日(木) 胎内市教育委員会・水澤幸一さんのご案内で江上館跡など、奥山荘の世界を探索。美味しい地ビールも堪能しました。

3月21日(月祝)まで 好評開催中!

冬の小企画展：阿賀野市所蔵近現代美術品展Ⅲ

越後の民芸陶の先駆

庵地焼 旗野義山の手技

(1915 - 1979)

会 場：阿賀野市立吉田東伍記念博物館

入館料：期間中は通常料金＝常設展示もご覧いただけます。

一般 300 円、小・中 150 円 ※友の会会員は無料



サークルだより

※活動への申し込みは、資料準備の都合上、前日までに友の会事務局（博物館内）へ電話（0250-68-1200）・FAX（0250-68-5016）・メール（y.togo@oregano.ocn.ne.jp）でお申し込みください。

3月例会(学習会) 白河荘を歩く会

日 時：3月17日(木) 10:00～12:00

会 場：市立吉田東伍記念博物館

内 容：「越後の民芸陶の先駆 庵地焼 旗野義山の手技」をじっくりと鑑賞します。

春の例会 “花”の会

日 時：4月6日(水) 13:30～15:30

会 場：市立吉田東伍記念博物館

内 容：市民文化講演会2011の予習をかねて、11月の「能楽師・津村禮次郎氏を囲む茶話会」を映像で振り返ります。

活動スナップ
③

第13回研究発表会



12月12日(日) 吉田ゆき名誉館長(友の会会員)にしかお話できない祖父・吉田東伍のエピソードを興味深く拝聴しました。

活動スナップ
④

運営委員会



2月5日(土) 「来年度は何をしようか?」。運営委員会では、雪雲に負けじと、事業企画を文殊の知恵で練り上げました。新年度も会員の皆さんに楽しんでいただけるよう、はりきってがんばります。

① 会場係をしてみませんか?

開催中の「越後の民芸陶の先駆 庵地焼 旗野義山の手業」展の期間中の土日祝日の会場係をしてみませんか?詳しくは友の会事務局までお問い合わせ下さい。

② 「会員の研究ノート」「会員随想」の原稿を募集しています。

「会員の研究ノート」「会員随想」の原稿を募集しています。日ごろの研究成果の発表の場にご利用下さい。投稿規程などは事務局へお問い合わせ下さい。

友の会伝言板 …… 事務局より



編集後記

友の会通信の発行はいつも半日かかり。シールを貼って、封筒に詰めてと、こうした作業こそが会員としての楽しみの一つかもしれません。現在、新年度からの新規会員を大募集中です!ご近所、お友達へのお声がけをよろしくお願いします!! (H・T)